

- ◎令和2年度デジタル活用支援事業で協議会を構成していた体制（産学官連携）を活かし、構成はシフトプラス株式会社、都城市役所、株式会社ケイディ商事、学校法人都城コア学園。
- ◎講師は自治体企画のスマートフォン教室の開催経験を持ち、前年度も講師を務めたケイディ商事。行政手続き関係は、市民説明会等の経験が豊富、かつ前年度も講師を務めた都城市役所を中心に体制を構築。
- ◎構成員の中から支援員を構成し、経験豊かな都城コア学園の生徒をアシスタントとして配置。
- ◎体験に重点を置き、コンビニ交付、JPQR、スマートスピーカー等を体験していただける場を創出。



支援員4名を適宜配置
R2実証事業の経験者のみ！
研修も実施した上で、デジタル
ツールで最新の情報も適宜共有！



アシスタント6名
高齢者支援の経験者を優先的に配置
接遇等に力を入れた研修実施

市事業の
障がい者向けデジタル活用支援
地域おこし協力隊活用デジタル活用支援
等と密に連携

講習会：体験型を重視
基礎12コマ、応用4コマ



JPQR体験



コンビニ交付証明書発行体験

相談会
14コマ



待ちの姿勢ではなく、積極的に高齢者
がいる場に出向く攻めの姿勢！

Point ①

デジタル活用支援の浸透

- ・ 全国一斉の実施を背景として、社会全体として活動を盛り上げる機運の醸成
- ・ 支援される側が気軽に参加できる空気、またそれを後押しする周辺のフォロー意識
- ・ 繰り返し参加が可能な、息の長い持続可能な体制構築

Point ②

地域特性に応じたデジタル活用支援

- ・ 地域によって享受できるデジタル技術に差があるため、地域特性に応じた支援が必要
- ・ 実現のためには、自治体と実施事業者が密に連携し、ベクトルを合わせた活動を実施

Point ③

攻めのデジタル活用支援（市事業とも連携）

- ・ 対象者を①適用意欲がある層、②不安がある層、③拒否感がある層に分類
- ・ 特に②をターゲットとし、参加しやすい環境整備
- ・ 中山間地域の温泉施設や健康施設等、高齢者が多い場所に出向く支援を実施

Point ④

楽しく実感あるデジタル活用支援

- ・ 繰り返しの参加意欲喚起、また口コミで輪を広げるためには楽しさと実感が重要
- ・ 雰囲気作り、体験型プログラムや課題解決に繋がる支援を重視
- ・ 時勢に応じたデジタル活用支援も随時実施